

令和3年度 千葉市・大学連絡会議

令和3年12月16日

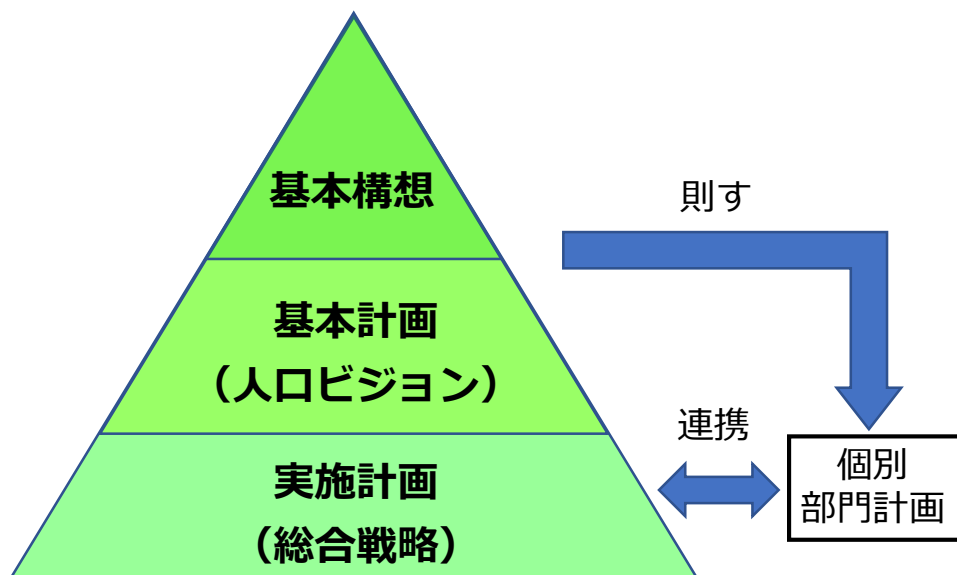
2040年を展望した まちづくり・ひとづくりについて



計画体系

- 市の総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画の3層で構成
- **基本計画**は、基本構想の実現に向け、**まちづくりの方向性や今後の施策展開を提示**
計画期間 : R5.4.1～R15.3.31 (10年間)
- 市政の特定課題等に対応するために各部門が定める**個別部門計画と連携**

【千葉市総合計画の計画体系】



基本構想

市政運営の指針として、恒久的な都市づくりの基本理念・基本目標、望ましい都市の姿を示す

【基本理念】人間尊重・市民生活優先

【基本目標】人とまち いきいきと幸せに輝く都市

基本計画

基本構想を実現するため、まちづくりの方向性などを示す基本方針や今後の施策展開を示す

【計画期間】 R5.4.1 ~ R15.3.31 (10年間)

実施計画

基本計画に基づく具体的な事業を提示

【第1次実施計画】 令和5年度～令和7年度

千葉市の特性①

未来に引き継ぐべき千葉市の特性 ⇒ **5つの「まちの宝」**

1 はるか「縄文」の昔から受け継ぐめぐみ豊かな自然

- 日々の暮らしの中で享受できる「縄文」の昔から続く豊かな自然の恵み
- 自然を大切にするひとびとの想いと行動

2 なんでもそろろう・なんでもできる利便性と安らぎをもたらすゆとり

- 市内でのあらゆる日常シーンへの対応を可能とする充実した都市機能
- 職住近接がもたらす時間のゆとりと、身近な自然が生み出す空間のゆとり



千葉市の特性②



3 多様な交流が生み出す拠点性、拠点性がもたらす多様な交流

- 東京圏にありながらも、地勢的な環境に起因した独立性
- 東京、房総各方面から海外まで、高い交通利便性が生み出す多彩な交流



4 おだやかで温暖な気候と交流により育まれる懐の深い市民性

- 温暖な気候と、まちの移り変わりにより生まれる交流の中で育まれてきた市民の柔軟さ

5 未来を拓く「挑戦都市」としての矜持

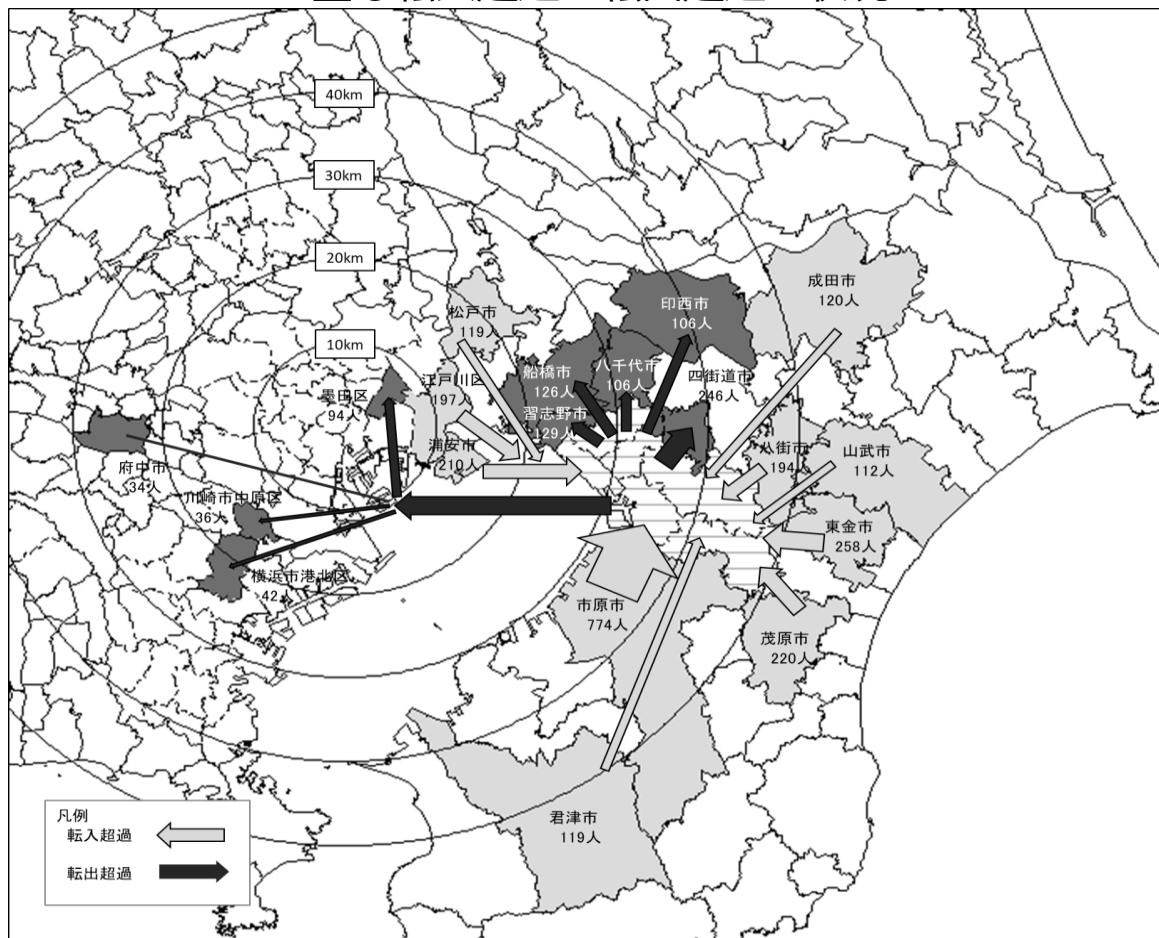
- パイオニアたちの挑戦を見つめ、支えてきたフィールド
- 歴史を動かし、まちを転換する大胆さ



現在の千葉市を取り巻く状況①（転出入）

➤ 本市への転入は県内中心で、主に本市以東、以南の都市からの転入が多い

主な転入超過・転出超過の状況



◆主な転入超過

市原市	+774人
東金市	+258人
茂原市	+220人
浦安市	+210人
江戸川区	+197人
八街市	+194人

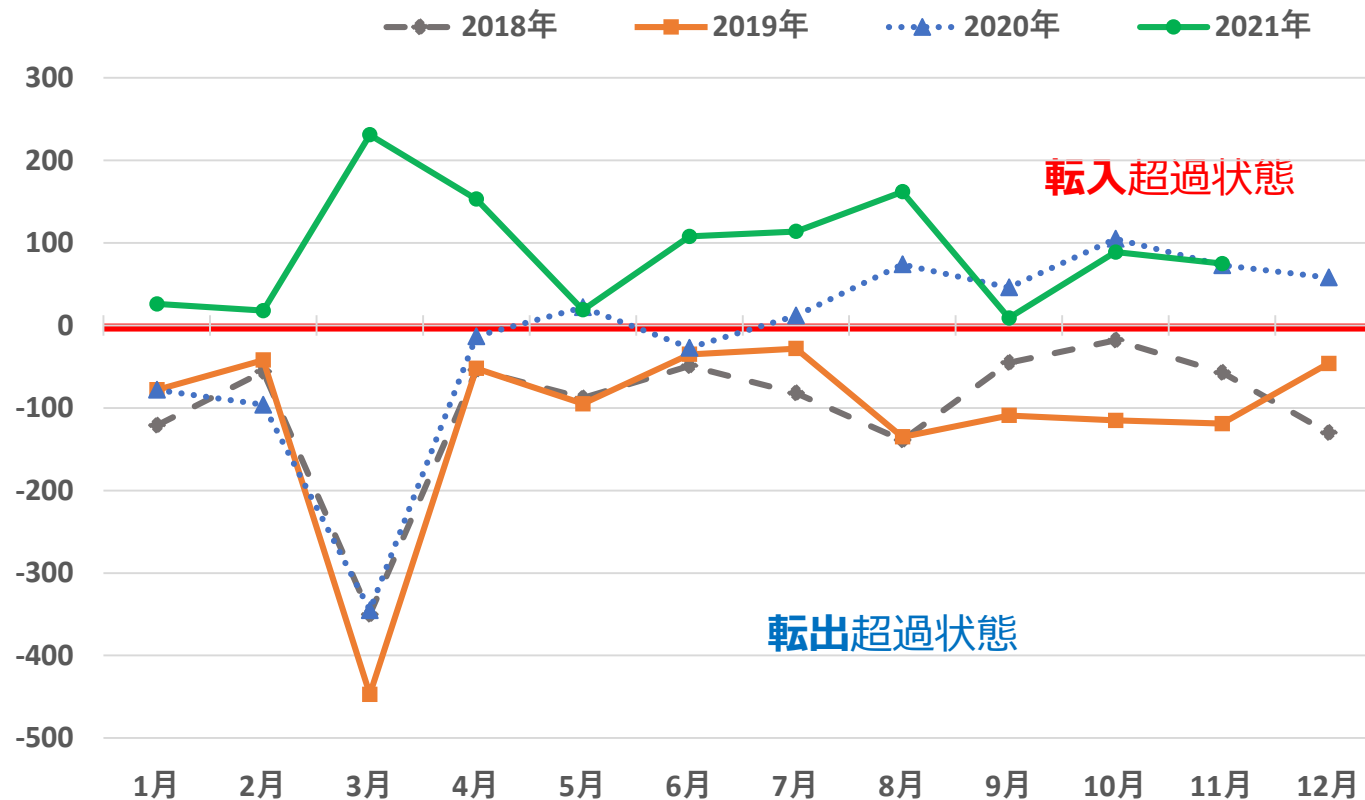
◆主な転出超過

四街道市	▲246人
習志野市	▲129人
船橋市	▲126人
八千代市	▲106人
印西市	▲106人
墨田区	▲94人
横浜市港北区	▲42人

資料：令和2年(2020年)住民基本台帳移動報告（総務省）

現在の千葉市を取り巻く状況②（東京都との転出入）

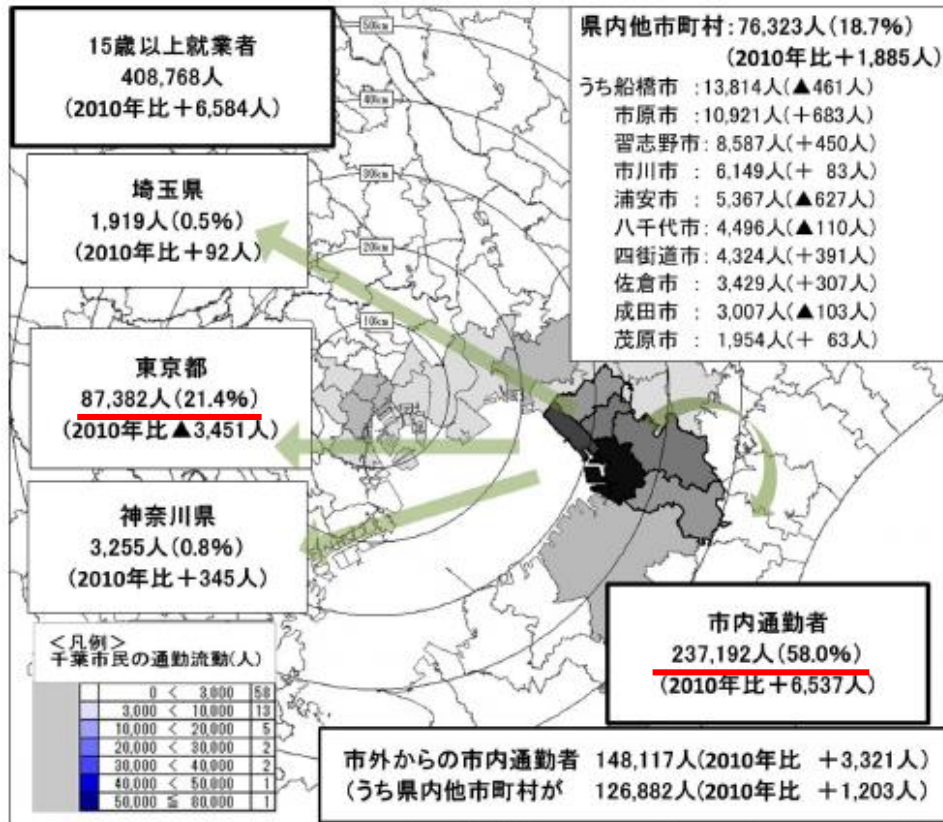
- 新型コロナウイルス感染症の拡大は、本市と東京都の人口移動に影響を与えており、2020年中の東京都への転出超過数は、前年より大幅に減少した。
- これまで一貫して転出超過であった傾向に変化が生じつつあり、引き続き動向を注視していく必要がある。



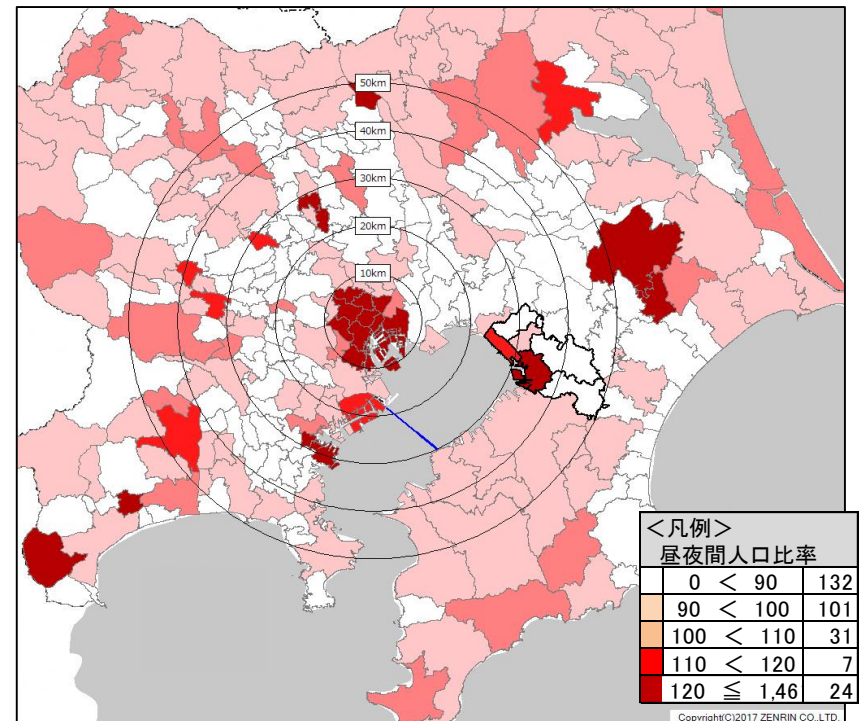
現在の千葉市を取り巻く状況（人の流れ）

- 市民の通勤先は、**市内が58.0%**と過半数を超える一方、**東京都は21.4%**にとどまる
- 市外からの通勤者は、県内近隣市が中心（市原市、船橋市、四街道市、習志野市など）
- 昼夜間人口比率は、中央区(123.7%)、美浜区(116.3%)を中心に広域的な雇用の場を提供しており、**市全体では97.9%**と首都圏政令市で最も高い

千葉市からの通勤流動（H22-H27）



東京圏の昼夜間人口比率(H27)



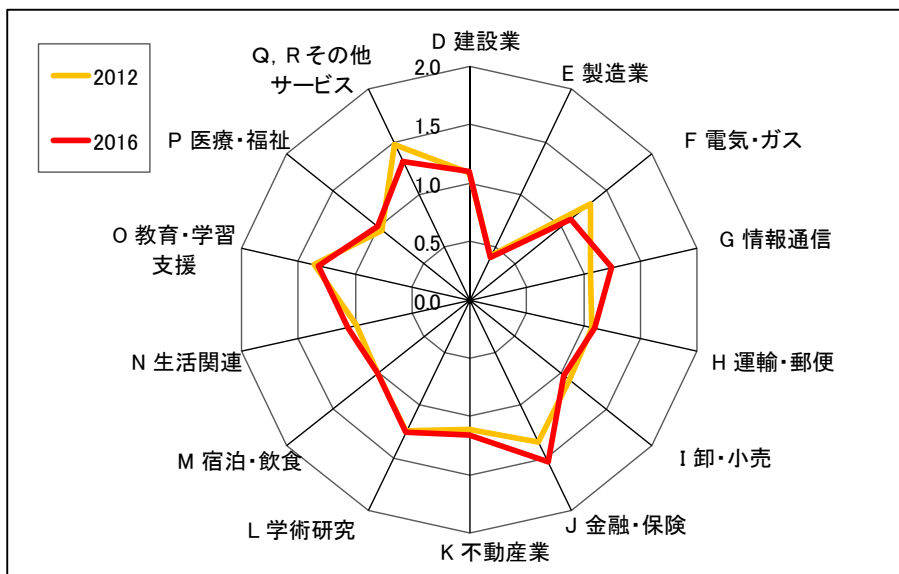
資料：平成22,27年（2010、2015年）国勢調査（総務省）

資料：平成27年（2015年）国勢調査（総務省）

現在の千葉市を取り巻く状況（産業）

- 第3次産業の比重が高く、産業構造は概ね全体的なバランスが取れている
- 本市の経済発展を支えてきた鉄鋼が、域外から稼ぎ域内産業へ大きな経済波及効果をもたらしている
- 鉄鋼の他、情報通信業や飲食料品等を中心とした多様な産業の育成・集積を図り、域外収入を稼ぐ手段の多様化を図ることが必要

産業大分類別従業者数の特化係数



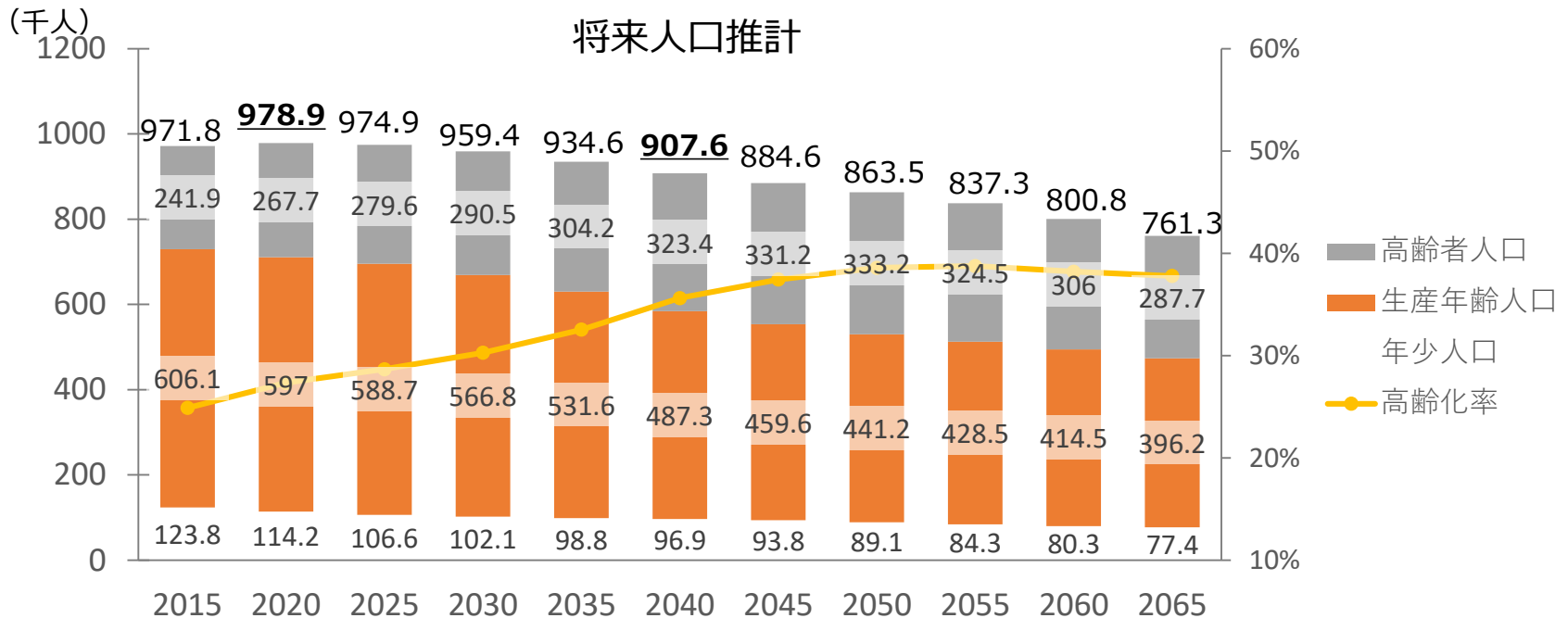
資料：（出典）平成24、28年（2012、2016年）経済センサス-活動調査（経済産業省）

特化係数

地域の産業の国内における強みを表したもの

2040年を展望した社会変化

- 総人口は2020年（979千人）をピークに減少（2040年は2020年比▲71千人）
- 年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15-64歳）は継続的に減少。
- 高齢者人口（65歳以上）は継続的に増加し、2040年までに55千人増（ピーク：2050年）



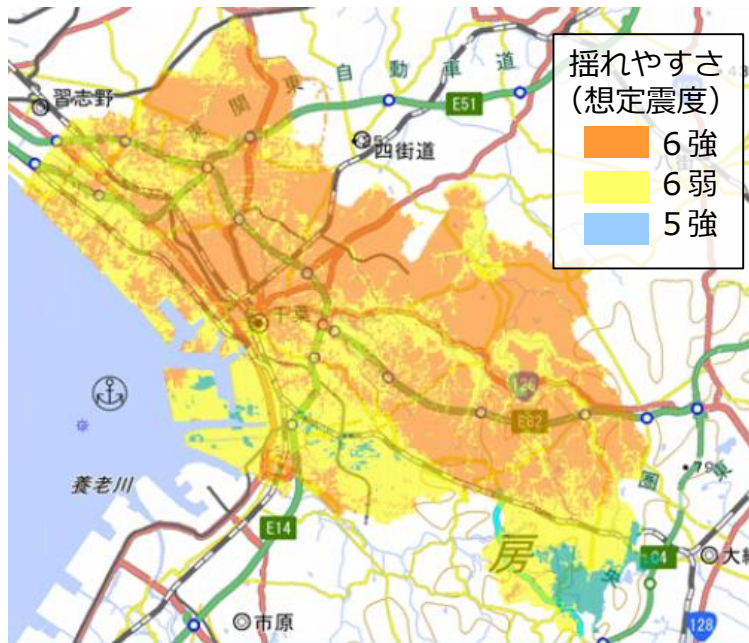
資料：千葉市作成

- ✓ 人口密度の維持、空き家・空地の有効活用、公共施設・インフラの適切な維持管理等
- ✓ 多様な人材が活躍できる環境づくり、テクノロジーの活用による生産性向上・働き方改革
- ✓ 年齢にかかわらず健康で活躍できる環境づくり
- ✓ 安心して出産・子育てできる環境の充実

2040年を展望した社会変化（災害等リスク）

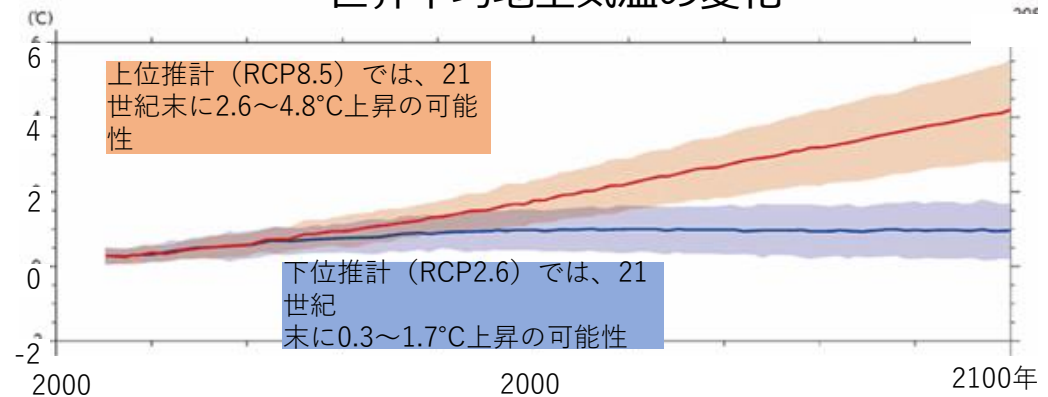
- 地球温暖化に伴う気候変動や首都直下地震のリスクが増大
- 新型コロナウイルス等の感染症拡大リスクが増大

地震の揺れやすさ（想定震度）



資料：千葉市地震・風水害ハザードマップ

世界平均地上気温の変化

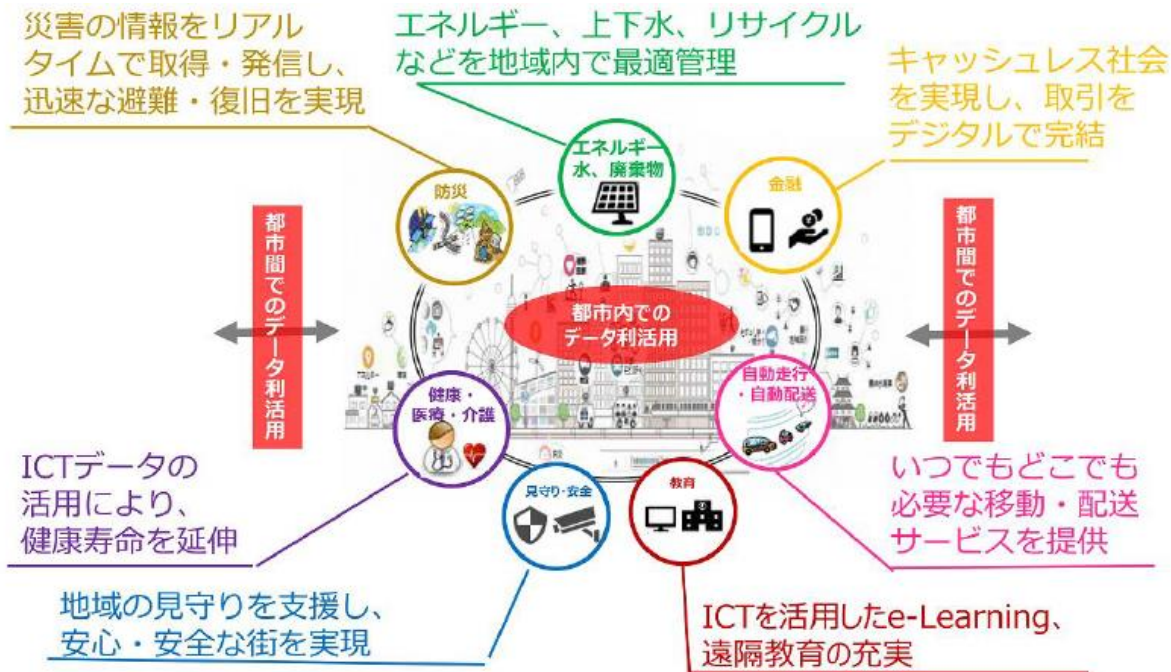


資料：令和2年版環境・循環型社会・生物多様性白書（環境省）

- ✓ 脱炭素社会、地球温暖化の抑制に向けた危機意識の共有と意識・行動変容の促進
- ✓ 災害に強いまちづくりの推進
- ✓ 職住近接や豊かな自然など本市のもつ優位性やテクノロジーを活用し、感染拡大防止と社会・経済活動の両立に対応したまちづくりの推進

2040年を展望した社会変化（テクノロジー）

- AIをはじめとするテクノロジーの発展が加速
- Society5.0に向けた本格的なデジタル社会への移行



資料：スマートシティガイドブック（R3.4）



資料：国家戦略特区推進課

- ✓ 幅広い主体の連携によるスマートシティの推進
- ✓ 行政・企業等のデジタル化の推進、データの横断的活用推進

2040年を展望した社会変化（SDGs）

- 「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会実現のため、17のゴール、169のターゲットで構成される持続可能な開発目標（SDGs）を設定（持続可能な開発のための2030アジェンダ）



資料：SDGsの概要及び達成に向けた日本の取組（外務省）

- ✓ 持続可能な開発のため、環境・社会・経済の3側面からの統合的な取組み
- ✓ 行政を含む多様なステークホルダーの連携・協力

みんなで目指す未来の千葉市

みんなが輝く 都市と自然が織りなす・ちばし

10年後に実現すべき千葉市の姿

- 本市の特性である「自然」、「利便性・ゆとり」、「拠点性・交流」を活かし、都市の活力と自然の潤いが織りなす、新たな価値が生まれるまち
- 本市に住まい、活動する人々が、一人ひとりの個性を活かし自分らしく活躍できるとともに、多様な主体がつながり連携することで、未来に向けて輝き続けるまち
- このようなまちの実現に向けて、めざすべき10年後の本市の姿を「みんなが輝く都市と自然が織りなす・ちばし」と定め、みんなが共有し、ともにまちづくりを進めるための指針とする

未来のまちづくりに向けた戦略的視点

限られた資源の選択と集中による分野横断的かつ重点的に取り組む4つの戦略的視点

戦略1 100年先に引き継ぐ 持続可能なまちづくり

- 縄文から受け継ぐ「自然と共生する」精神を活かした、SDGs達成に向けた取り組みの推進
- みんなの力を活かした災害に強いまちづくり

戦略2 ゆとりを生み・活かす 創造的なまちづくり

- 職住近接を活かしたゆとりある暮らしづくり
- テクノロジーを活用したスマートシティの推進
- 成熟社会を豊かにする次代を担うひとづくりと文化・スポーツのまちづくりの推進

戦略3 世界とつながる 多様性を活かしたインクルーシブなまちづくり

- 市民一人ひとりが属性にかかわらず自分らしく活躍できる地域社会づくりの推進
- 「誰ひとり取り残さない」セーフティネットの構築
- 市民の懐の深さとオリンピック・パラリンピックのレガシーを活かした共生社会づくりの推進

戦略4 都市機能の集積を活かした 地域経済・社会の活性化

- 挑戦都市としての矜持を持ち、次の時代のトレンドを創出
- 雇用・商業・観光の拠点として、圏域の中心的な役割を果たすまちづくり
- 地域特性を活かした広域連携の推進

まちづくりを進める力

- 多様な主体の一層の連携により「みんな」で進めるまちづくり
- 公共私役割分担の見直しと市民主体のまちづくりを支える仕組みづくり
- 多様な主体が社会課題の解決に挑戦できる環境づくり
- 県市間の連携強化による共通課題の解決や行政サービス向上と効率化
- 圏域の持つ特徴や多様性を活かし、圏域全体の活力向上を推進

1 将来にわたり持続可能な行財政運営

- ・ 財政健全化や事業の見直し、デジタル化の推進など、効果的で計画的な行財政運営への取組み
- ・ 民間活用やまちづくりの視点を含む経営的な視点に立った公共施設の適正管理の推進
- ・ 市民への積極的な情報共有を図るなど、透明性の高い行政財政運営

2 計画の進行管理及び評価

- ・ 基本計画のまちづくりによる取組みの効果を高めるため、進捗状況の管理及び評価を実施
- ・ 基本計画に基づく実施計画の終了時に政策評価を実施。取組みの進捗状況や市民の実感などを踏まえ、評価や課題の抽出し、取組みを改善
- ・ 実施計画では、毎年度の進捗管理により、取組みに係る課題の抽出及び不断の改善を図る

次期基本計画の戦略的視点に関連した 大学等における取組み

戦略1 100年先に引き継ぐ 持続可能なまちづくり

- 縄文から受け継ぐ「自然と共生する」精神を活かした、SDGs達成に向けた取り組みの推進
- みんなの力を活かした、災害に強い、安全・安心なまちづくり

【事前調査票で頂いたご回答から抜粋】

- ①自然観察会や学生主体の行事を企画、学内に避難所運営委員会を設置し、地域の災害支援活動（植草大・同短期大）
- ②自然災害など大規模災害発生時には、帰宅困難学生の対策、並びに必要なに応じた地域の避難所等運営支援（敬愛大）
- ③避難所運営委員会等の防災講話企画に協力（帝京平成大）

戦略2 ゆとりを生み・活かす 創造的なまちづくり

- 職住近接を活かしたゆとりある暮らしづくり
- 市民が快適な暮らしを実感できるスマートシティの推進
- 成熟社会を豊かにする次代を担うひとづくりと文化・スポーツのまちづくりの推進

【事前調査票で頂いたご回答から抜粋】

- ①教員や小学生を対象のプログラミング教育実施を検討（東京情報大）
- ②放送や通信を活かし、いつでもどこでも学べる遠隔教育を多様な方法で提供（放送大）
- ③現任保育士がいつでも学べる、あるいは、潜在保育士等が再び職場に復帰するための学びの場の検討（千葉明德短期大）
- ④市民公開講座をWEBにて開催。健康・体力維持、栄養、生活習慣、認知症予防などに関する出前講座を実施（東都大）

戦略3 世界とつながる 多様性を活かしたインクルーシブなまちづくり

- 市民一人ひとりが属性にかかわらず自分らしく活躍できる地域社会づくりの推進
- 「誰ひとり取り残さない」セーフティネットの構築
- 市民の懐の深さとオリンピック・パラリンピックのレガシーを活かした共生社会づくりの推進

【事前調査票で頂いたご回答から抜粋】

- ① 県立高校での校内居場所カフェの開催など、市内の高校生への福祉的支援の取り組みの実施（淑徳大）
- ② 各種イベントやスポーツ大会、スポーツ選手への日本語サポート等で学生ボランティアの実施（神田外語大）
- ③ 看護学科の実習・演習等を応用してICTを活用した地域住民への研修プログラムの開発（県立保健医療大）

戦略4 都市機能の集積を活かした 地域経済・社会の活性化

- 挑戦都市としての矜持を持ち、次の時代のトレンドを創出
- 雇用・商業・観光の拠点として、圏域の中心的な役割を果たすまちづくり
- 地域特性を活かした広域連携の推進

【事前調査票で頂いたご回答から抜粋】

- ①「学術研究・イノベーション推進機構」を設置し、ベンチャー支援や地域産業との連携を推進。また、小中学生向けにも「西千葉子ども起業塾」を実施（千葉大）
- ②産学連携による新事業創出を目的とした「ビジネスシーズ交流会」に継続的に協力し、市内企業との共同研究開発の実施（千葉工業大）
- ③「文教のまち稲毛区」という地域特性を踏まえ、地元商店街活性化に協力（千葉経済大・同短期大）